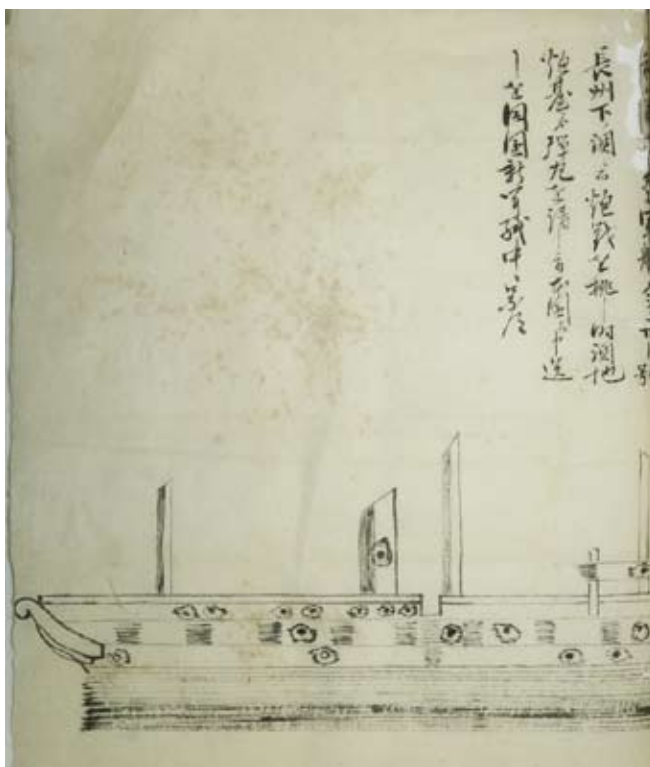


# 文久3年 (1863) の攘夷決行と列国の報復

和蘭蒸気軍艦メジュサー号船  
 長州下ノ関ニ而砲戦を挑し時淵  
 砲台より弾丸を請し旨本国へ申送  
 しを同国新聞紙中ニ図す



「新聞紙」(毛利家文庫29風説16)

## 【居留地新聞】

通商条約等によって日本の各地が開国すると、横浜(神奈川)・神戸・長崎等の居留地では新聞が発行され、居留者に情報を提供するとともに、日本の情報が母国に送られるようになりました。横浜で発行された“*The Daily Japan Herald*”(「ヘラルド」)や、“*The Japan Commercial News*”(「日本貿易新聞」等と訳されます)などが有名です。

これらの欧字新聞はさかんに翻訳筆写され、諸大名は情報収集に努めたようです。なかでも“*The Japan Commercial News*”は広く読まれました。

これらの翻訳筆写新聞は、『日本初期新聞全集』(ペリカン社)として集成されていますが、当館では、そこに載らない、いくつかの翻訳筆写新聞の記事を見ることができます。ここでは、文久3年(1863)の攘夷事件に関連して、それらを紹介します。

なお、翌年の連合艦隊による下関砲撃の関連史料は、県立図書館で展示されていますので、あわせてご覧下さい。

## 【攘夷の決行】

孝明天皇の強い意向もあり、将軍徳川家茂は文久3年の5月10日(西暦1863.6.25。以下カッコ内は西暦)をもって攘夷を実行することを約束しました。幕府は必ずしも軍事行動を想定していませんでしたが(右解説参照)、長州藩はこの日、馬関海峡を通過した米商船ペンブローク号に対して砲撃を加え、続いて23日(7.8)には仏艦キャンシャン号、26日(7.11)には長年の友好国であったオランダの艦船メデーサ号に対しても砲撃を加えました。

上の写真は、このときに長州藩の癸亥丸から17発の砲弾を受け、かろうじて豊後水道に逃れたメデーサ号の姿ですが、何という新聞の掲載かは不明です。

長州藩によるペンブローク号砲撃のニュースが横浜に届いたのは5月25日(7.10)でした。アメリカはすぐに幕府に抗議し、軍艦ワイオミング号を報復のため下関に差し向けました。



「新聞紙」  
 (毛利家文庫 29 風説 16)

幕府は横浜港の鎖港通告をもって攘夷の実行と位置づけしており、5月9日に小笠原長行が文書で外国外交団にその旨を告げました。

この資料には、それに対する列国の猛抗議文の翻訳をはじめ、文久3年(1863)の諸事件に関する居留地新聞の翻訳が数多く含まれています。

## 【米仏の報復攻撃】

米艦ワイオミング号は5月28日(7.13)に横浜を出、30日(7.15)に豊後水道を抜けて姫島に碇泊し、6月1日(7.16)に下関に迫りました。

その日下関には、長州藩がイギリスから買得していた蒸気船(壬戌丸。英名ランスフィールド号)・ブリック船(癸亥丸、英名ランリック号)のほか、萩で建造したバーク船(庚申丸)等がありました。

陸の砲台からの砲撃で戦闘が始まり、米艦ワイオミング号の攻撃で壬戌丸と庚申丸(資料には「ブリック船」(癸亥丸)と書かれていますが、実際には庚申丸)が撃沈され、癸亥丸は大破しました。米艦の被害は即死4名、疵傷者7名のうち1名は傷のため死亡しました(以上は毛利家

文庫29風説16「新聞紙」によります。同新聞の別訳が、『日本初期新聞全集』第2巻p313にあります)。

一方、フランスもキャンシャン号の報復のため、セミラミス号とタンクレード号の2艦が6月1日(7.1)に横浜を出港、同5日(7.20)黎明に下関に迫りました。長州藩の戦艦は先の戦闘で壊滅状態にあったため、仏艦は下関の前田砲台を砲撃して沈黙させ、上陸して砲身を無力化するとともに、民家を焼いて去りました。新聞名はわかりませんが、上記の同資料には、そのときの様子も詳述されています。

米・仏艦隊の報復によって欧米の軍勢力を思い知らされた長州藩は、高杉晋作に下関の防衛を任せ、士分以外の農民、町人からも広く募兵することを決め、これにより奇兵隊が結成されることとなります。

### 「馬関攘夷戦絵図」(毛利家文庫58絵図886)

表紙には、「文久3年6月朔日、5日 馬関攘夷戦絵図 及ヒ下ノ関砲台図 夷船図」とあります。これはそこに含まれる蒸気軍艦図ですが、米艦ワイオミング号も仏艦セミラミス・タンクレード両号もスクリー船であり、描かれている「水車(外輪)」はありませんでした。ただし、5月22日に長州藩が攻撃を加えた仏艦キャンシャン号は、外輪をもつ蒸気艦だったようです。



### 「仏艦前田砲撃」(毛利家文庫81写真史料87-5)

日付からみて、仏艦セミラミス号による1863年7月20日(文久3年6月5日)の報復攻撃を描いたものです。原画はベルサイユ宮殿にあるようです。



米艦ワイオミング号が6月1日に下関で報復攻撃を行ったときの様子。「ヒキ島」は彦島。

### (毛利家文庫29風説16「新聞紙」)

- 一八 合図礮(砲)台
- 二三四五六七八 礮(砲)
- 八ハ バルク船(庚申丸)
- 九ハ ブリック船(癸亥丸)
- 十ハ 蒸気船(壬戌丸)
- 十一ハ 同茲二撃変
- 十二ハ 日本船
- 十三ハ 垂軍艦(ワイオミング号)
- 十四ハ 同航線
- 十五ハ 海峡

この報復攻撃における米艦ワイオミング号との戦闘の様子は、『山口県史史料編 幕末維新7』p883に掲載されているブリュインの書簡に、また仏艦セミラミス号との交戦の様子は、同書p897のジョレス報告書にも詳述されています。